

令和7年度
近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール

(有機農業・環境保全型農業部門)

30年を超える循環型農業から生まれる命の循環～但馬鴨と米がつなぐ地域の未来～

のうじくみあいほうじん

あいがものたにぐち

農事組合法人 アイガモの谷口

主な取組

兵庫県新温泉町

平成4年からアイガモ農法により無農薬栽培の米に取り組み、親子三代で循環型農業を実践。現在、無農薬栽培による米10ha及び大豆0.9ha、飼料用米12haを作付。除草・害虫抑制を担うアイガモ農法の「黒但馬鴨」、食肉用に専用飼育舎で育てる「但馬鴨」合わせて1万羽を飼養。耕作放棄地を活用した飼料用米の生産、鴨の堆肥での土づくり、無農薬の米の生産と鴨肉加工を組み合わせた2つの循環（田んぼの循環・命の循環）を確立。

餅や冷凍おむすび等の米加工品、但馬鴨の自社加工品を直売所・道の駅・百貨店カタログ・ふるさと納税など多様な販路で展開し、付加価値の高い農業経営を実現し、雇用を創出し地域活性化に貢献。

平成9年に開始したふるさと会員制度は、1口で米50kgと但馬鴨2羽のオーナーとなれる仕組みで、現在200口の会員が農作業体験を通じて取組を理解し支援している。アイガモ農法で活躍した「黒但馬鴨」は会員限定販売。消費者交流会や小学生の農作業体験、生き物調査を通じ、地域や循環型農法への理解促進を図っている。



農林水産省
近畿農政局

令和7年度
近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール

(有機農業・環境保全型農業部門)

オーガニックビレッジを起点とした地域循環型農業

ゆうげんがいしゃ やまぐちのうえん

有限会社 山口農園

奈良県宇陀市

主な取組

有限会社山口農園は、耕畜連携による循環型の土づくり、土壌診断に基づく施肥、防虫ネットの導入や太陽熱を利用した土壌消毒など持続可能な農業技術を確立し、有機JAS規格が制定された平成12年にいち早く認証を取得。現在10ha171棟のハウス全てにおいて有機JAS認証を受け、ホウレンソウ、コマツナなどの軟弱野菜やハーブ類を輪作体系と周年栽培により安定供給している。

平成17年に法人化し、生産・調製・販売業務等の完全分業化により計画生産、計画販売の体制を確立し、経営効率の向上と規模拡大を実現した。平成22年、職業訓練校として「オーガニックアグリスクールNARA」を開講。研修生の新規就農に際しては、農地の確保や販路の支援も行っている。

平成25年、山口農園とスクールの卒業生からなる山口農園グループを発足し、農地の幹旋や資材の共同購入、販路の支援をおこないつつ、有機農産物を安定供給できる体制を整備した。

全国に先駆けてオーガニックビレッジ宣言を行った宇陀市において、地域の中心的な役割を務め、行政や他の有機農業者と連携し、地域ブランド力向上と有機農業の普及拡大に貢献している。



農林水産省
近畿農政局

令和7年度 近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール

(有機農業・環境保全型農業部門)

適材適所で導く有機農業の担い手づくり

なりたふあーむ

成田ふあーむ

大阪府能勢町

主な取組

成田ふあーむ代表 成田周平氏は、能勢町内の有機農家で研修を受けた後、平成24年に独立就農、その翌年には、有機JAS認証を取得。現在、250aの面積で有機野菜等の生産を行っている（有機JAS認証取得189a）。その他、土壌診断に基づく施肥設計や耕畜連携による地域循環型農業にも取り組んでいる。

独立就農後から、有機農業を志す就農希望者の研修を実施。令和5年度からは大阪府とJAグループ大阪が主催する大阪産（もん）スタートアカデミーの「有機農産物アカデミー」で講師を務める。さらに、大阪府の若手普及指導員の研修も積極的に受け入れ、有機農業の指導者の育成も行っている。

令和3年に立ち上げた「のせすく（能勢×サブスクリプション）」は、能勢町の有機農業者と消費者を繋げるCSA(地域支援型農業)型の販売モデルであり、消費者の有機農業への理解の促進だけでなく若手農業者の販路確保・経営安定に寄与している。



農林水産省
近畿農政局